

# よしづがわいせき 1 吉津川遺跡

所在地：三条市大字下保内字  
割前61 3 ほか

時代：古墳時代・平安時代

## 遺跡の概要

三条市教育委員会では、国道 403 号バイパス道路建設工事に伴って、三条市大字下保内地内にある吉津川遺跡の発掘調査を平成 13・14 年度に行いました。

この調査では、掘立柱建物跡、用水路の跡、溝などの遺構、また土器や木製品、鉄製品など人が使っていた道具などがみつかりました。ほかに、地震、植生など当時の自然環境を窺うことのできる資料も確認することができました。ここではそのうちのいくつかをご紹介します。

## 発掘された遺構と遺物

### 掘立柱建物

地面に穴を掘り、柱をたててつくる掘立柱建物の跡が全部で 4 棟確認されました。中には建物の跡が 2 棟分重なっているものもあります。これは、2 棟が同時に建っていたのではなく、方向を変えて立て替えられたことを示しています。この 2 棟は建物の構造も違ってきます。1 棟は側柱式、もう 1 棟は総柱式と呼ばれるつくりです。総柱式は建物を支える柱が多い分、より重いものを支えることができます。また、調査区を横切るような大きな溝がみつかりました。そのそばにあった建物は、この溝と方向をあわせて建てられています。この溝は土地の区画を表すためのものであると考えられます。



空から見た吉津川遺跡(西から)



掘立柱建物の跡



2 棟の建物跡



建物に使われた柱

### 古墳時代の土器

土師器と呼ばれる古墳時代の土器がまとめて大量に出土しました。一つ一つ見てみると、煮炊きに使われたもの、まつりに使われたものなどの種類があります。この速報展では、これらの土器のかげらをもとのかたちに復元して展示します。



まとめて大量に出土した  
古墳時代の土器



復元された土器の一部

## 用水路

幅 4 m、深さ 1 m の大規模な用水路が確認されました。北側には、水量調整などに使われたとみられる堰がついています。この用水路は、南北の方向を流れ、調査区外まで続いています。現在使われている用水路もほぼ同じ方向に作られています。

この用水路を埋めている土を取り除くと、中からは珠洲焼・漆器碗・下駄・木簡などが出土しました。これらの遺物から、この用水路は中世（鎌倉時代～戦国時代）以降に使われたものであると考えられます。市内ではこのほか数か所で、この時期につくられた用水路が見つかっています。

## 用水路の中から見つかった遺物



漆器碗



下駄（差齒）



木簡



堰



用水路

## 地震の跡

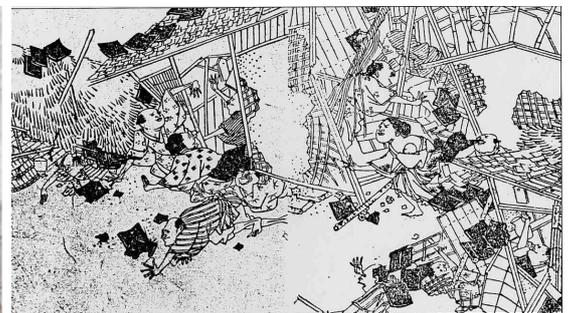
文政 11 (1828) 年 12 月 18 日、三条地震とよばれる大地震があり、このあたりに大きな被害をもたらしました。また、昭和 39 (1964) 年の新潟地震では、液状化現象などによる被害が報道され、多くの人に知られるようになりました。

吉津川遺跡でも、地震でできた地割れや地層のズレがたくさんみられます。もっとも長い地割れは 40m 以上も続いて調査区外まで広がっています。また、地震によって噴き上げた砂が異なった層から噴き出していることから、この土地は少なくとも 2 回の地震におそわれていたことがわかります。



地割れと断層

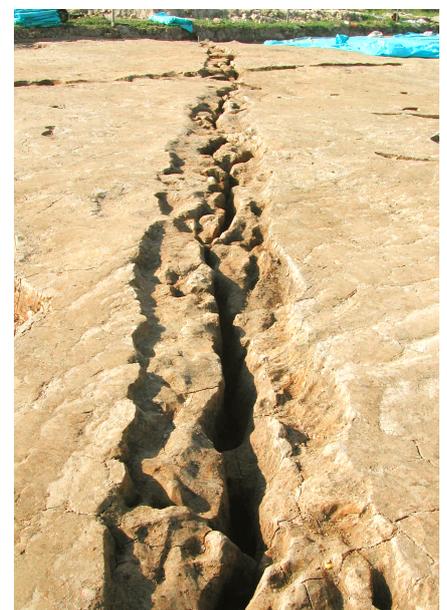
地割れの右側と左側で、同じ層の高さが違ってきます。



『越後地震口説』にみる地震の惨状



違う高さで噴き上げている砂



地震でできた長い地割れ